

28年3月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年3月1日～ 28年3月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は13社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/3月	4月	5月
入荷動向	スギ	15.6	18.8	3.1
	ヒノキ	7.1	0.0	△ 7.1
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	50.0	△ 50.0	△ 50.0
消費動向	スギ	△ 6.3	6.3	6.3
	ヒノキ	0.0	7.1	7.1
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	100.0	50.0	0.0
在庫動向	スギ	18.8	18.8	15.6
	ヒノキ	0.0	△ 14.3	△ 14.3
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	50.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギ原木の入荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキは3月の増加が、4月は横ばい、5月は減少。トドマツは3月の増加が、4月、5月は減少。

・スギ原木の消費は3月の減少が、4月、5月はやや増加。ヒノキは3月の横ばいが、4月、5月はやや増加。トドマツは3月、4月の増加が、5月は横ばい。

・スギ原木の在庫は3ヵ月連続して増加。ヒノキは3月の横ばいが、4月、5月は減少。トドマツは3月の増加が、4月、5月は減少。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	28/3月	4月	5月
スギ	△ 9.4	△ 12.5	△ 12.5
ヒノキ	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
カラマツ	—	—	—
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの原木価格は弱含みで推移。

・トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

’(原木荷動き)

・年度末は入荷多くなる時期、4～5月は国有林が入山規制で出材は少なくなる。春になり、挽き立て増加(北海道)。

・翌月から出材が落ちていくだろうが、価格帯に影響は少ないと思うので現状維持。生産体制変わらず。在庫横ばい(近畿)。

・ヒノキ丸太の入荷は3月横ばい、4月はやや減少、5月前半は少ない、3月～5月は消費は横ばい。在庫は3月やや増える、4月、5月は少し減る(中国)。

・スギの出材が少ないが、新年度に入ると増加の見込み。最大生産能力の7割程度の操業状態、丸太が増えれば8割位に増やしたい。スギは入荷が少ないため在庫も少ない。ヒノキは若干増えて来る見込み(中国)。

・天候が回復し、出材量が増えてきた。生産能力一杯で稼働予定。スギ丸太在庫増えてきた。

・天候回復し、ヒノキの出材が増加する。3月、4月、5月は残業する。仕入と消費のバランスが取れる(九州)

(原木価格)

・公売価格は高値安定。トドマツ丸太は、バイオマス、合板、輸入に引っ張られ(北海道)。

・出材減っても影響はなさそう(近畿)。

・ヒノキは3月～5月は横ばい(中国)。

・スギは出材が少ないため3月に入って少し強気配。ヒノキは3m、14～16cm直材だけが、突出して高かったが、多少落ち着いてきた(中国)。

・製品の荷動き悪く価格伸びない(中国)。

・出材が増加するため原木価格は下げ気味になる(中国)。

28年3月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/3月	4月	5月
生産動向	スギ	6.3	6.3	12.5
	ヒノキ	7.1	14.3	14.3
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	100.0	50.0	0.0
出荷動向	スギ	△ 18.8	6.3	6.3
	ヒノキ	0.0	7.1	0.0
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	50.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	12.5	6.3	12.5
	ヒノキ	△ 7.1	0.0	0.0
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの製材品の生産は、3ヵ月連続して増加。トドマツは3月、4月の増加が、5月は横ばい。

・スギ製材品の出荷は3月の減少が、4月、5月は増加。ヒノキは3月の横ばいが、4月は増加、5月は横ばい。トドマツは3月の増加が、4月、5月は横ばい。

・スギ製材品の在庫は、3ヵ月連続して増加。ヒノキは3月の減少が、4月、5月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/3月	4月	5月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 6.3	△ 12.5	△ 12.5
	柱角 KD12×3	△ 31.3	△ 18.8	△ 18.8
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	母屋角	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	タルキ	△ 7.1	△ 8.3	△ 7.1
	間柱	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	柱角 KD12×3	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	土台角 10.5×4	0.0	△ 8.3	△ 8.3
	土台角 12×4	△ 8.3	△ 16.7	△ 16.7
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	—	—	—	
〃 ラミナ	—	—	—	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角、桁角及びタルキはやや弱含みないし弱含みで推移。通し柱、間柱、ヌキ、平割及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。母屋角は3月の横ばいが、4月、5月は弱含み。

・ヒノキ柱角の10.5cm・12.0cmは、3月の横ばいが4月、5月はやや弱含み。土台角10.5cmは3月の横ばいが、4月、5月はやや弱含みに。12cm角は弱含み。通し柱及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・トドマツ製材品は、生産増と合わせて販売増進（北海道）。
- ・スギ、注文増につき注力、ヒノキは依然荷動き悪い。昨年に比べ今年の春需はそこそこあり、4月～6月がピーク。在庫水準はそれほど高くないので積み増しを目指す（近畿）。
- ・ヒノキ製材品の生産は3月～5月は横ばい。出荷は3月は少し増え4月～5月は横ばい。在庫は3月～5月少しずつ増やす（中国）。
- ・在庫が減って来たので生産量を増やしたいが、原木の動向に左右される。4月以降は荷動きが良くなると期待。在庫が減っているのので積み増しをしたい（中国）。
- ・スギ、ヒノキの出荷、需要は減少気味。スギ柱、在庫増えつつある（中国）。
- ・ヒノキは残業しているため生産はやや増加、出来るだけ販売している（中国）。
- ・出荷が著しく減少のため在庫はやや増加（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギは一部値下げ要請も根拠なし、原料背景を考えると値下げ出来ない(北海道)。
- ・スギ・ヒノキともに販価、仕入ともに変わらず推移、上げ下げムードを感じない(近畿)。
- ・ヒノキ製材品、3月～5月は横ばいと予想(中国)。
- ・スギ10.5cm角は、荷動きは比較的良好だが、単価には反映されていない。12.0cm角などは余り変化なし、但し、ヒノキよりは順調。間柱に関しては良く動いている。ヒノキ10.5cm×3mは順調な荷動き。相場は変わらず、その他は全体的に余り状況(中国)。
- ・スギ4寸角の需要が少なく、売りづらい(中国)。ただでさえ低空飛行状態のヒノキ製品単価なのに、土台4寸角が売りづらくなっている(中国)。
- ・4月～6月は原木も下げるが、製品価格も下げる(中国)。

28年3月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/3月	4月	5月
仕入動向	米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入は3月、4月の増加が、5月は横ばい。ニュージーランド丸太は3ヵ月連続して減少。

・米マツ丸太の消費は3月、4月の増加が、5月は横ばい。ニュージーランド丸太は3月の横ばいが、4月、5月は減少。

・米マツ丸太の在庫は3月、4月の増加が、5月は横ばい。ニュージーランド丸太は3ヵ月連続して増加。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/3月	4月	5月
米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格は3ヵ月連続して横ばい。

・ニュージーランド丸太の価格は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・ニュージーランド丸太は、2月～3月と年度末期間は例年輸出向け梱包材の需要だが、昨年より様変わりし、需要が減っている。このまま4月、5月（GW）へ向かって、更に低下することを危惧する（中国）。

(原木価格動向)

・

28年3月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	28/3月	4月	5月
生産			
米マツ製材品	50.0	50.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷			
米マツ製材品	50.0	50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫			
米マツ製材品	50.0	50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	50.0
動向			
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は3月、4月の増加が、5月は横ばい。NZラジアータ製材品は3月、4月の横ばいが、5月は減少。

・米マツ製材品の出荷は3ヵ月連続して増加。NZラジアータ製材品は3月、4月の横ばいが、5月は減少。

・米マツ製材品の在庫は3ヵ月連続して増加。NZラジアータ製材品は3月、4月の横ばいが、5月は増加。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/3月	4月	5月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	△ 50.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ梱包材(割角)	0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ土木用材	—	—	—
その他	—	—	—

・米マツ平角及び小割の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。正角は3月の弱含みが、4月、5月は横ばい。

・NZ梱包材は(割板、割角)3月の横ばいが、4月、5月は弱含みで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品は2月～3月と年度末期間は例年輸出向け梱包材の需要だが、昨年より様変わりし、需要が減っている。このまま4月、5月(GW)へ向かって、更に低下することを危惧する(中国)。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は2月～3月と年度末期間は例年輸出向け梱包材の需要だが、昨年より様変わりし、需要が減っている。このまま4月、5月(GW)へ向かって、更に低下することを危惧する(中国)。